

中部様式
(調査事業)

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

川根本町地域公共交通会議

令和6年1月9日設置

調査事業（計画策定） 令和7年9月 地域公共交通計画策定予定

調査の背景および必要性

- 令和4年台風15号の被害により**大井川鐵道の町内区間が運休**している。今後の運行再開等を踏まえ町の公共交通のあり方を検討し、効率的な公共交通体系の構築が必要。
- 川根本町内の移動手段は、運休している大井川鐵道の代替えとして、**令和5年10月から町営バス千頭・家山線を運行開始**。その他に町営バス1路線（寸又峡線）、町内全域をカバーするデマンドタクシー3台、民営タクシー、スクールバス9路線、福祉タクシー事業を展開。
- 川根本町総合計画では、快適に安心して暮らせるふるさとの実現に向け、**だれもが快適に安心して利用できる交通体系を整備**することを掲げている。
- 大井川鐵道の復旧時期が未定であり、復旧前後で公共交通ネットワークが異なることから**復旧前と復旧後での検討**が必要。
- 鐵道の町内区間運休の影響で新たな運行形態となった町営バスやデマンドタクシーについて、**利用者の満足度やニーズを調査、本町にとって望ましい地域公共交通の姿を明らかにする**。

公共交通ネットワークイメージ

- 町外での買い物や通院は約7割が島田市へ、次いで静岡市となっている。また町内には観光資源が多いが、公共交通を利用する来訪者の交通手段として町内交通の接続及び町外交通との利便性が課題。
- 5月の大型連休や紅葉シーズンにおける町営バス千頭・家山線の1日の利用者数は150人程度。観光シーズン以外の1日の平均利用者数は60人程度。1便あたりの利用者は約10人。



実施した調査およびその結果明らかになったこと（その1）

事業内容	結果概要
<h3>1.公共交通の現状把握</h3> <h4>①町民ワークショップ</h4> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活における移動状況 移動に関する困りごと 公共交通に対する意見・要望 <p>時期：令和6年10月3日、4日 参加者：28人（2会場合計）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外出手段は自家用車がほとんどであり、公共交通を利用する人は少ない。 日常的な買い物、通院は町内で完結している。 子ども（高校生）を家山駅や島田駅方面まで送迎している場合も多い。 近距離の移動で利用できるサービスがあるとありがたい。 子供たちが行きたい場所に行けるサービスがあるとありがたい。 公共交通の充実が定住促進や観光振興につながるのではないかと。
<h4>②関係者ヒアリング</h4> <ul style="list-style-type: none"> バス・タクシーの利用状況 交通事業者が抱える課題 来訪者の移動での困りごと 移動スーパーの継続意向 <p>調査対象：交通事業者、川根本町観光協会、 移動スーパー事業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者は、バスやタクシー運転手の担い手不足や高齢化に苦しんでいる。 来訪者は、町内での移動手段に苦労している。 家山駅までS Lで来た観光客が、千頭駅まで移動する時間帯のバスがない。 移動スーパーは、予想より売り上げが多く、今後も事業を継続していく予定。
<h3>2.各種ニーズ調査</h3> <h4>①町民アンケート</h4> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活における移動状況 公共交通の利用状況 公共交通全般に対する意見・要望 <p>時期：令和6年11月18日～11月26日 対象：町内全世帯（2,681世帯） <u>回収率：48.7%（1,306票）</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 免許証を約8割の方が所有し、外出手段は自家用車利用が浸透している。 大井川鐵道が復旧した場合の利用条件として、運賃、運行本数などを挙げている方が多い。 町営バスは、約6割の方が利用したことがない。 デマンドタクシーは、約2割の方にしか利用方法が知られていない。 ライドシェアについては、「利用したい」が約2割、「利用したくない」は約3割。 公共交通が充実するなら多少の財政負担の増は仕方ないと、約4割の方が回答。

実施した調査およびその結果明らかになったこと（その2）

事業内容	結果概要
<p>2.各種ニーズ調査（つづき）</p> <p>②中高生アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活における移動状況 公共交通の充実による効果 公共交通に対するアイデア <p>時期：令和6年11月16日～11月29日 対象：町内中学生（96人） 川根高校生（81人）</p> <p>回収率：77.4%（137票）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●中学生 <ul style="list-style-type: none"> 通学以外の外出での交通手段は、自家用車（家族等送迎）が約7割である。 公共交通の利便性向上で、進路の選択肢が増えると考えている生徒が多い。 ●高校生 <ul style="list-style-type: none"> 通学以外の外出の目的は、買い物が7割を占めている。 公共交通を利用しない理由として、運賃が高い、利用したい時間帯に便がないなどが挙げられている。
<p>③公共交通利用者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利用状況 利用満足度 <p>時期：令和6年11月22日～12月3日 対象：町営バス利用者 デマンドタクシー利用者</p> <p>回収率：34票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●町営バス <ul style="list-style-type: none"> 利用目的は、通勤・通学がほとんどである。 日中時間帯の運行本数に、約7割が不満を抱えている。 改善要望は、島田市コミュニティバスとの乗り継ぎのしやすさが6割である。 ●デマンドタクシー <ul style="list-style-type: none"> 利用者の7割は、70歳以上の方である。 週に2～3日の利用が最も多く3割である。 総合的な満足度は、不満を抱えているより満足している回答の方が多い。
<p>3.データの整理・分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●あらゆる用事において島田市などの町外への移動がみられる。 ●特に高齢者は、日常的な外出（買い物、通院）は町内で済ませている。 ●町内施設まで公共交通サービスで移動しにくい状況がみられる。 ●交通事業者においては、ドライバー不足やドライバーの高齢化を抱えている。 ●公共交通の充実によって、送迎の負担軽減や中学生の進路先の選択肢増などの影響が考えられる。
<p>4.地域公共交通会議における協議・報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●計画策定に向けた事業計画や各種ニーズ調査、計画素案等を地域公共交通会議で協議・報告（第1回会議：令和6年10月、第2回会議：令和6年12月、第3回会議：令和7年3月（予定））

調査結果の地域公共交通計画への反映（計画の目標を達成するための主要施策）

実施した調査及びその結果明らかになったこと（抜粋）

- ・ 回答者の3割を占める80歳以上の2割が運転免許証の返納意向があり、**今後公共交通の利用者が増加する予測。**
- ・ **デマンドタクシー利用者の内、約5割は「代替りの交通手段はない」と回答。**
- ・ 交通事業者は、ドライバー不足及び高齢化の課題を抱えている。
- ・ 地域主体の公共交通サービスの担い手が一定程度確認された。



■ 町内交通の充実

- ・ デマンドタクシーの維持・向上
 - ⇒ AIを活用したアプリ予約が可能となるシステムを導入することで乗合率を高め、効率的な運行を目指す。
 - ⇒ 町営バスなどを利用している高校生については、関係課と協議の上、既存のスクールバス9路線との統合（混乗）を検討する。
 - ⇒ 福祉施設や薬局などが行う施設送迎車が稼働していない時間の活用を検討する。
- ・ デマンドタクシーを利用できない来訪者は町内での移動手段に苦労しているが、民営タクシー事業者はドライバー不足やドライバー高齢化の問題を抱えていることから、新たな公共交通（公共ライドシェア等）の導入を検討し、デマンドタクシーとの役割分担をはかり、より利便性の高いサービスを目指す。

調査結果の地域公共交通計画への反映（計画の目標を達成するための主要施策）

実施した調査及びその結果明らかになったこと（抜粋）

- ・あらゆる用事において島田市など町外への移動がみられる。
- ・町営バス千頭・家山線の日中時間帯の運行本数に、約7割が不満を抱えている。
- ・町外への移動を支えている大井川鐵道が運休している。（復旧時期は未定）
- ・公共交通の利便性向上で、進路の選択肢が増えると考えている生徒が多い。



■ 広域交通の維持・拡充

- ・町営バス（千頭・家山線）の維持・本数拡充
- ・大井川鐵道復旧への支援
 - ⇒関係者間での協議
 - ⇒【復旧後】大井川鐵道の利用促進策検討
- ・島田市などの町外施設への移動において、利用できる公共交通サービスが限られていることに加え、運行本数、運行時間帯等に不満がみられることから、アクセスの利便性を向上させるための公共交通サービス（島田駅への直行バス等）の検討や町外送迎の活用が必要。
 - ※島田市への公共交通の運行内容の検討にあたっては、交通事業者や島田市などの関係者と協議を進めながら検討する。

調査結果の地域公共交通計画への反映（計画の目標を達成するための主要施策）

実施した調査及びその結果明らかになったこと（抜粋）

- ・ 町営バス利用者からの要望として乗り継ぎのしやすさが過半数を占めるなど、**島田市へのアクセス要望が高い**。
- ・ 来訪者から、公共交通では複数の施設を回りにくいとの意見があり、**観光施設周遊バス**やレンタカーのサービスが求められている。
- ・ 子供たちが行きたい場所に行ける交通サービスがあるとありがたい。

■ 交通・まちづくりの連携

- ・ 交通サービス同士の連携強化
 - ⇒ 町内交通同士のダイヤ調整（町営バス、路線バス、井川線）
 - ⇒ 町外交通（島田市コミュニティバス等）とのダイヤ調整
- ・ 交通と施設の連携強化
 - ⇒ 観光周遊に利用できる交通サービスの検討
 - ⇒ 移動スーパーとの役割分担
- ・ 日常的な用事を町内で済ませている高齢者や町内での移動を家族の送迎に頼っている児童生徒が、デマンドタクシーの利用方法などを認知している割合が低いいため、情報発信の強化に努める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和7年1月17日

協議会名:川根本町地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価	【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
【計画の準備・関連計画等の準備】 計画を策定する上で反映すべき、上位計画や関連計画の内容を整理した。	A	事業は適切に実施された。	<p>【補助対象事業名】 地域公共交通調査事業(計画策定事業)</p> <p>【事業内容】 川根本町地域公共交通調査事業委託</p> <p>【実施時期】 令和6年月日～令和7年3月31日(令和6年度事業)</p> <p>【計画策定に向けた方針】(令和7年度策定予定) 本調査事業と次年度事業を踏まえて、令和7年度中に計画を策定する予定である。本調査事業により、現状と課題を整理し、基本方針や目標の検討を行っていく。公共交通に関わる様々な主体が相互に協力して、当町にとって持続可能かつ効果的な公共交通網を形成し、公共交通サービスの維持確保を図る。</p>
【現況調査】 地域の特性を整理、公共交通の実態を把握し、分析した。	A	事業は適切に実施された。	
<p>【公共交通に関するニーズ調査、ヒアリング調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民アンケートの実施 対象:町内全世帯(2,681世帯)、回収数:1,306票(48.7%) ・公共交通利用者アンケート 町営バス利用者、デマンドタクシーの利用者 回収数:34票 ・中高生アンケート 町内中学生(96人)、県立川根高校生徒(81人) 回収数:137票(77.4%) ・関係者ヒアリング 交通事業者2社、川根本町観光協会、移動スーパー事業者 	A	事業は適切に実施された。	
【公共交通のあり方等の検討や課題の整理】 川根本町の地域公共交通における現状及び課題を整理した。	A	事業は適切に実施されている。	
【基本方針・目標の検討】 現状と課題の整理から基本方針や目標の検討を行う。 (第3回川根本町地域公共交通会議で協議予定)	A	事業は適切に実施されている。	
【地域公共交通会議の開催】 10月:第1回、12月:第2回、3月:第3回(予定)	A	事業は適切に実施されている。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月17日

協議会名:	川根本町地域公共交通会議
評価対象事業名:	川根本町地域公共交通計画策定事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>(川根本町地域公共交通計画は令和7年度策定予定)</p> <p>川根本町の高齢化率は県下で2番目の高さであり、今後はその加速とともに免許返納者数も増加し、公共交通の利用者数は増加してくると考えられる。</p> <p>現在の公共交通サービスは、令和4年台風15号災害により運休している大井川鐵道千頭駅～家山駅を、令和5年10月から町営バス路線として運行を開始した。その区間を幹線として、枝葉となる町内全域に対し、デマンドタクシーを1台追加し3台でカバーしている。その新たな運行形態と従来からの交通事業者による路線バス、タクシー事業を含む公共交通サービスについて、住民及び来訪者の満足度や移動需要について調査する必要性が生じた。</p> <p>本業務では、地域の現状や住民等利用者の移動ニーズについて調査・分析を行い、本町にとって望ましい地域公共交通の姿を明らかにし、関連計画との整合を図りつつマスタープランとなる地域公共交通計画を策定する。</p> <p>現在運休している大井川鐵道の復旧については、時期を含め詳細な事項は決定していない。復旧前後で公共交通ネットワークが異なることから、計画策定においては、それぞれで取り組む施策等の検討が必要となってくる。</p>